

## 美術館におけるガラス工芸の鑑賞を支援するボランティア活動

学生団体名：工芸史研究会（金沢美術工芸大学）

参加学生：田邊陽子・田村奈実・北川亜紗子・古澤かおり（以上、芸術学専攻3年）

大槻光菜・木村彩佳・中村緑・原恵理子（以上、芸術学専攻1年）

片石憂衣・田井夏紀・豊海健太（以上、工芸科1・2年）

### 1. 地域活動の概要

平成21年9月19日から10月25日まで石川県能登島ガラス美術館で開催された特別展「ガラス工芸の精華」において、来館者の作品鑑賞を支援するため、学芸員の指導のもとで展示作品に関連するクイズを作成して展覧会の場内に掲示するとともに、会期中に実施された中学校団体鑑賞の作品解説補助や講演会、およびグラスハーブコンサートのサポートを行い、同美術館での来館者とガラスアートとの出会いを支援した。なお、参加学生は金沢美術工芸大学の美術科芸術学専攻と工芸科の計11名である。

### 2. 地域活動の具体的な内容

#### 【活動日程】

#### ①館内クイズの作成

8月1日～8月25日 館内クイズに関する美大生の試案を作成し、美術館へ提出。

[参加：田邊・田村・北川・古澤・大槻・木村・中村・原・片石・田井・豊海]

9月1日～9月16日 館内クイズの文案を完成させ、展示のためのパネルに仕上げた。

[参加：田邊・田村]

#### ②作品解説補助と講演会のサポート

8月25日（火） 能登島ガラス美術館の見学研修 ※美術館見学と打ち合わせ

[参加：田邊・田村・北川・古澤]

9月19日（土） 講演会 ※講演会補助と基礎知識の修得

[参加：田邊・田村・北川・古澤・大槻・木村・中村・原・片石]

9月20日（日） 講演会 ※講演会補助と基礎知識の修得

[参加：田邊・古澤・大槻・木村・原・片石]

9月25日（金） 中学校の団体鑑賞（中島中学校） ※団体鑑賞の案内やサポート

[参加：木村・大槻・中村]

9月28日（月） 中学校の団体鑑賞（海南中学校） ※団体鑑賞の案内やサポート

[参加：田村・木村・原]

9月29日（火） 中学校の団体鑑賞（東部中学校） ※団体鑑賞の案内やサポート

[参加：田村・木村・原]

9月30日（水） 中学校の団体鑑賞（御祓中学校、香島中学校）

[参加：北川・片石・田井・豊海] ※団体鑑賞の案内やサポート

#### ③グラスハーブコンサートのサポート

10月12日（月） グラスハーブ・コンサート ※コンサートのサポート

[参加：田邊・田村・古澤・原・片石]

【活動風景】

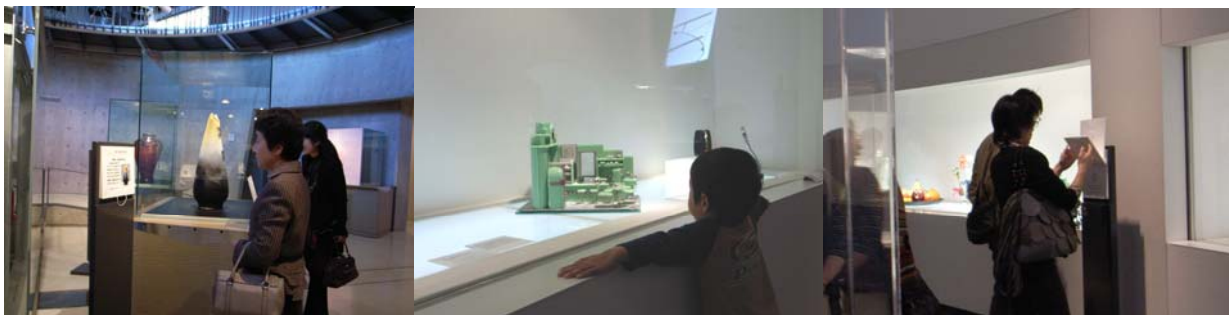
\*美術館見学と打ち合わせ

(展示会場の把握, 学芸員からの説明と指導, スケジュールの調整)



\*館内クイズと鑑賞の様子

(館内クイズの設置, クイズを楽しむ来館者)



\* 中学校の団体鑑賞の様子

(団体鑑賞のサポート, 作品解説補助)



\* 講演会や展示室の様子

(講演会の準備とサポート, 展示室の監視, 作品解説補助)



＊グラスハーブコンサートの様子

(コンサートの準備や撤収，進行のサポート)



### 3. 地域活動の評価

今回の活動は次の二つに大別できる。

一つは、館内クイズの作成。これはすでに能登島ガラス美術館で行われていた展示の工夫であるが、「ガラス工芸の精華」展において金沢美術工芸大学の学生がクイズ作成に協力することにより、日ごろ美術を学び制作に励む学生ならではのアイデアを反映させることができた。その結果として、来館者がガラス作品を楽しみながら深く理解することに、少しでも貢献できたのではないかと思う。

もう一つは、会期中に実施された中学校団体鑑賞の作品解説補助や講演会、およびグラスハーブコンサートのサポートを行い、同美術館での来館者とガラスアートとの出会いを現場で支援すること。美術館の展覧会関連企画や地元の中学校の団体鑑賞受け入れを人的にサポートし、また作品と来館者との距離を近づける役割を、未熟ながら果たすことができた。

以上の二つの活動は、いずれも今後改善すべき点を多く含むものだが、こうした地域貢献型のボランティアへの参加は、美術を志す学生にとっても極めて有意義な経験となった。

### 4. 今後、この地域活動を継続、活発化していくために必要なもの、及び課題

今後の最も大きな課題は、準備時間の確保である。美術館における展覧会の準備と大学の学事日程を互いに考慮しつつ時間を確保し、より多くの時間をかけることができれば、さらに充実した内容と新しいアイデアによる地域貢献型のボランティアに取り組むことが可能となるだろう。大学のカリキュラムを柔軟なものとして、学生が大学から地域へと活動の幅を広げる環境を整えることが必要である。

### 5. その他（学生や地域の方の感想等）

能登島ガラス美術館の方々からは、今回の活動について、当初の目的を達成できたとの評価をいただいた。また、同美術館が展覧会期中に実施したアンケートの中にも、「クイズがあつてとても良かった。普通に作品を見るよりも楽しめました。手づくりな感じが良かったです。」という好意的な感想がよせられており、一応の評価をいただけたことがわかる。

参加した金沢美術工芸大学の学生からは、「学芸員の仕事が間近に見ることができ、展覧会の展示や関連する美術館教育に参加できたことが貴重な経験となりました。」という感想が多く聞かれた。芸術学専攻で学術的な研究を行う学生や工芸科で工芸作品を制作する学生にとって、日ごろの学生生活では得難い貴重な経験となったことと思う。この場をお借りして、学生を受け入れ御指導をいただいた今井学芸員をはじめ能登島ガラス美術館の方々には、心より御礼を申し上げたい。